

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2022
AUTUMN

Vol. 90

特集 海上保安大学校 初任科

ポテンシャル無限大!

多様性溢れる若い世代が、海保に新しい風を巻き起こす



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **90**

2022 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 夏の海の事故を減らせ！各地で周知啓発活動を展開
- 2 海上保安大学校「海神祭」 海上保安学校「五森祭」3年ぶりの実地開催
- 3 ジブチ・インドネシア各海上保安機関に対し能力向上支援を実施
- 3 赤道付近海域で疾病者発生～米国と連携した救助～

[特集]

海上保安大学校 初任科

4 **ポテンシャル無限大!**

多様性溢れる若い世代が、海保に新しい風を巻き起こす

12 **NEWS** **FLASH**

裏表紙

INFORMATION

海の「事件事故」は118番へ！

海上保安庁音楽隊 第28回定期演奏会



夏の海の事故を減らせ！ 各地で周知啓発活動を展開

令和4年7月16日から7月31日までを「海の事故ゼロキャンペーン」、7月16日から8月31日までを「夏季安全推進活動期間」と定め、テレビやラジオなどを通じて海難防止を呼びかけるとともに、海難防止講習会、海上安全教室を通じた安全教育を積極的に行いました。また、民間団体や関係機関と合同でパトロールを実施し、全国各地で海難防止のための周知啓発活動を行いました。

各地での
取り組み



©JCGF



合同パトロール



海上安全教室



安全指導

JCG 海上保安庁 JAPAN COAST GUARD

海の事故ゼロ、楽しい思い出をつくらう！
海難防止

海の事故ゼロキャンペーン

海の「事件・事故」は **118番** 7/16~31

海に行く前にチェック！

- ・ウォーターセーフティガイドで海難予防の知識を習得！
- ・海の安全情報で当日の気象海象チェック！

■主催：公益財団法人日本海難防止協会、公益財団法人海上保安協会、海上保安庁
■協賛：総務省、大塚一ツ子、水産庁、国土交通省、海難防止推進委員会、公益財団法人日本海難防止協会 2022 8月日本「海の日」 憲法記念日

コラボ実施中！



ガリガリ君



仕事猫

海上保安庁からのお願い

- ・海で遊ぶときはライフジャケットを正しく着用
- ・海でのびでの歩きスマホはダメ！！
- ・天気の変化をこまめにチェック！！

118番 海のもんたは

JCG 海上保安庁 x 北海道日本ハムファイターズ

北海道日本ハムファイターズ



海上保安大学校 「海神祭」



学生によるステージ公演



全日本カッター競技大会も同時開催



アーティスティックスイミング



校内（三ツ石山）からの花火打ち上げ



海上保安大学校「海神祭」 3年ぶりの実地開催 海上保安学校「五森祭」

令和4年6月4日、5日、海上保安大学校学生祭「海神祭（わたつみさい）」、同年7月2日、海上保安学校学生祭「五森祭（いつもりさい）」を行いました。
新型コロナウイルスの影響により一般の方が参加できる形での開催は3年ぶりです。



海上保安学校 「五森祭」



五森祭開催!!



練習船みうら乗船体験



カッターレース

左：吉川英梨氏 中：江口圭三氏 右：宮野直昭氏

TOPICS



五森祭では、海上保安学校を舞台に愛と感動のストーリーを描いた小説「海の教場」の著者 吉川英梨、日本水難救済会常務理事 江口圭三、海上保安協会常務理事 宮野直昭によるトークイベントが行われました。



軽音楽班の演奏



ジブチ・インドネシア各海上保安 機関に対し能力向上支援を実施



DCG職員との制圧訓練



BAKAMLA職員に対する国際法講義



BAKAMLA等職員に対する海上犯罪取締り研修



DCG職員との船舶移乗訓練（陸上施設）

令和4年7月、海上保安庁は、モバイルコーポレーションチーム（MCT）4名をジブチ共和国に派遣し、ジブチ沿岸警備隊（DCG）職員に対し、船舶移乗や制圧の訓練を行いました。また、MCT2名および海上保安大学校教授1名をインドネシアに派遣し、インドネシア海上保安機構（BAKAMLA）等職員に対し、海上犯罪取締り研修や国際法講義を行いました。

今回の取組みは、独立行政法人国際協力機構（JICA）の枠組みによるものです。



患者の搬送状況



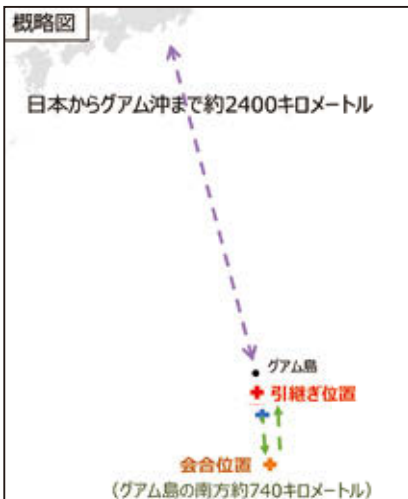
巡視船みずほ



みずほからの吊上げ準備にあたる米海軍所属回転翼機



赤道付近海域で疾病者発生 米国と連携した救助



令和4年6月7日、午後3時41分頃、赤道付近海上において操業中の漁船から「乗組員が腹痛を訴えており救急搬送をお願いしたい」と第三管区海上保安本部に通報がありました。

この通報を受け、東南アジア周辺海域における海賊対策のためにインドネシア周辺海域等に派遣中の第四管区海上保安本部名古屋海上保安部所属巡視船「みずほ」が現場に急行し、6月8日午後5時30分頃、グアム島から南方約740キロメートル付近海上で漁船と会合、巡視船みずほにおいて乗船中の医務官により応急処置を行いました。また、第三管区海上保安本部と米国沿岸警備隊（USCG）で調整を行い、6月9日午前8時16分頃、グアム島から南方約170キロメートル付近海上で同警備隊から依頼を受けた医師同乗の米海軍所属ヘリコプターに疾病者を引き継ぎ、グアム島内の病院に搬送しました。

なお、海上保安庁では、自由で開かれたインド太平洋の実現に向けた日米共同の取組である「SAPPHIRE（サファイア）」を通じ、米国沿岸警備隊との更なる連携強化を推進しております。

特集 海上保安大学校 初任科

ポテンシャル無限大!

多様性溢れる若い世代が、海保に新しい風を巻き起こす

令和3年4月、海上保安大学校に初任科が新設された
初級幹部職員の育成を目的に、4年制大学卒業者に門戸が開かれたのだ
多種多様なバックボーンを持って集まった研修生たち
彼らの新鮮な知識と視野に、大きな期待が寄せられている

取材・文/中島 敦 (オンサイト)



令和3年4月、海上保安庁初級幹部職員を養成するための教育機関である海上保安大学校に、新たに初任科が開設された。高校卒業者を対象に4年間のカリキュラムが組まれる本科に対し、初任科は4年制大学卒業者を対象とした1年間の課程となっており、翌年には初級幹部を



海上保安大学校
校長 江口 満

「一期生と二期生では大きく印象が異なります。特別な環境の中へ何も見えないまま飛び込んできた一期生は、大きな緊張感と期待感を持っているためか、クレバーでありつつ慎重なイメージ。二期生は一期生からアドバイスを受けながら、より元気でチャレンジングなイメージです。本科を見ても期ごとに色が異なりますが、初任科は動き出したばかりということもあってより大きく違いが出ています。彼らが現場に出て、将来どのような足跡を残し、背中を見せてくれるのかを楽しみに、大学校教職員の総力を挙げて支えていきます」

育成する課程である特修科へと編入される。

昨年入学した一期生が特修科に編入され、新たに二期生を迎えた初任科。この新たな取り組みに臨む研修生たちの様子をレポートする。

「わずか1年」という課題

初任科は、23歳から30歳まで様々な研修生が集まっている。大学での専門課程も様々なら、就職していた場合には前職も警察官や銀行員、中にはレスリングの元国体選手と多彩な顔ぶれとなり、初任科の新設は、海上保安庁を目指す人に対して確実に新たな門戸を開いたようだ。

初任科開設にあたり、何よりも課題となったのが「1年間で十分な教育を施すことができるのか?」という点だった。研修生は初任科を終えると特修科に編入され、ここでは現場経験を積んだ海上保安官と机を並べることになるわけだが、逆に言えば現場経験を持つ海上保安官と同等の知識と技術を、わずか1年間で身につけさせなければならぬからだ。

開設の1年前から準備を進め、カリキュラム編成に取り組んできた田中隆博教務部長は「大卒とはいえ海上保安に関してはゼロベースの人たちですから、果たして1年間で必要なレベルに持っていけるのか?この点に悩みましたし、必然的にカリキュラムも濃密なものになりました」と、当時の思いをこう振り返る。



しかも、海事関係の座学については、10月から12月にかけて行われる乗船実習に合わせて9月にはほぼ終えていなければならず、実質半年しかない。研修生は日々時間に追われるカリキュラムに取り組むことになった。

やはりカリキュラム編成に取り組んできた機関科担当の遠山英治教官も「2年

目に進む特修科の内容は既に定まっていますから、その特修科にスムーズに入っていけることを重視しました」と当時の苦労を語る。田中教務部長も「授業について行くのが辛い研修生もいると思います。ただ、そういった研修生も1ヶ月2ヶ月経つとなんとか慣れてくるようです」と付け加えた。

教務部長 田中隆博



「初任科には色々な背景を持って入ってきた人がいます。そういった人たちが基本的に海上保安業務の知識のないところから海上保安庁に興味を持ち、その興味をベースに一生懸命学び、研鑽を重ねています。自分の将来を模索している大学生で興味を持った人はぜひチャレンジして欲しいですし、中長期的に見れば、そういう人たちに新しい風を吹かせてもらいたいというのが私の希望です」

遠山 英治

海事工学講座准教授

「誰もエンジンの内部など見たことありませんから、内部の動きを可視化した模型を手作りして、教科書の挿絵だけでは想像しにくい部分を補うなど工夫しています。昨年度は授業の準備で足りない部分もありましたが、カリキュラム全体を通じて、これからもどんどん改善しながら来年、再来年に繋げていきます」



期待を超えた二期生たち

一方、二期生ということもあり緊張感も研修生側も同じだったようだ。新たな挑戦への期待と同時に二期生である自分達がしっかりとしなければ」という思いを常に抱えており、自然と研修生の間に体感が生まれ、互いにリードし、フォローし合う関係が築かれていった。

その一例が毎日実施される夕方のミーティングで、本来は連絡事項等の伝達を

目的とした時間だったが、研修生たちはその時間を使って、お互いにその日の授業の復習をし、理解しきれなかった者がいれば研修生同士で説明し、理解を深めていった。誰から何か指示されたわけでもなく、全員が目標に向かう中で自然と生まれた対応策だ。

また、専攻はそれぞれ異なるとはいえ、大学で一つのこと専門で取り組んできた経験はやはり大きかった。「彼らは元々、何かを専門に学び論文を書く、そういう訓練を積んできた人たちですから、学び方は分かっている。もちろん初めて触れる科目で最初は苦労する人もいますが、ある程度慣れてくれば勉強のやり方は分かっている。手放しても自分たちで伸びていく。それは強みでした」と、航海科担当の重松吾郎教官は説明した。

「さらに言えば、彼らは大学を出て就職先の一つとしてここを選んでいるので、学生というより職業に就いたという感覚が強いように感じます。そのためか、大変意識が高く、ワンランク上の気概を持っているのではないかと思います」

とはいえ、わずか1年で海上保安官としての基礎を作り上げることがやはり容易ではない。初任科において、こと航海と機関に関しては重松教官、遠山教官をはじめ計6名が専任であっている。誰もが現場経験豊富な、教育機関経験者であり、それぞれが経験してきた現場での出来事や物の見方、考え方を織り込みなが

ら授業を行い、初任科研修生の「経験不足」を少しでも補おうと努めている。

体力が求められる訓練科目もまた厳しい課題だ。「高校大学とそれなりにスポーツはしてきたが、それでも厳しい」と漏らす研修生もいるし、前述の通り上は30歳近い研修生もいる。遠泳訓練では3海里(約5.6km)の距離を、高卒で入学してくる本科生と一緒に泳ぐことになるが、さすがに苦労する者もいるようだ。

海上保安庁に吹く新しい風

初任科の新設は、確実に海上保安大学校に、そして海上保安庁に新たな流れを作ろうとしている。思い掛けなかった影響は既に特修科にも表れている。初任科から特修科に進んだ研修生と席を並べることで、現場から来ている一般研修生にもピリリとした緊張感が漂い、互いに襟を正して学ぼうという姿勢が表れているという。

初任科研修生に期待されるのは、新たな初級幹部職員となることだけではない。海上保安筋の、いわゆる「生え抜き」の人材に混ざって、4年制大学で海上保安とは別の専門性を身につけた人材が増えることに大きな期待が寄せられているのだ。

「私たちの時代は「T型人間になれ」と言われて育ちました。幅広い知識を持ち、さらに何か専門性のある深い知識を持つて、ということでした。しかし最近はそのT型に

留まらず、複数の専門性を備えたπ型人間が求められています」と重松教官は言う。大学で学び身につけた一つの専門性に、海上保安大学校で得るもう一つの専門性が加わることで「二本の柱を持つπ型人間となり、10年先、20年先の将来にこれまでとは異なる視野を備えた海上保安官が育つことが期待されている」。

初級幹部職員の育成を担う立場として、江口満校長が常々心がけているのは「状況を俯瞰できる人材の育成」だという。自分の視点だけではなく外から俯瞰して見るこの大切さ、そしてその状況がどのような流れの中にあるのか、時間軸を

オレンジ色のキャップを被る指導学生2名を先頭に遠泳訓練に挑む研修生たち。この日は(1周約0.5海里)所定コースを3周したが、本番では6周(約3海里)を泳がなければならない。1グループに一艘のボートが見張りにつき、さらに警戒艇が巡回する中、泳ぐ研修生たちも必ずバディを組み、1名たりとも見逃すことのない体制で臨んでいる。





1日のスケジュール

6	● 16:30 起床 (整列・体操・掃除等)	
7	● 27:10 朝食	
8	● 38:20 課業整列	
9		
10		
11	8:45~12:00 4授業	
12	12:00~13:00 5昼食	
13		
14		
15		
16		
17	13:00~17:15 6授業および体育部活動	
18		
19		
20		
21	17:15~22:15 夕食・入浴・自習時間	
22	22:15 帰校門限	
23	22:30 巡検・消灯	

16:30 掃除

7:10 朝食

4 本科生、英語の授業風景

4 特修科航海科(初任科含む)、航海力学の授業風景

4 初任科機関科、材料工学基礎の授業風景

6 初任科航海科、電子海図実習の授業風景

- 平日は 17:15以降、22:15の帰校門限まで外出可
- 金曜日、土曜日および祝日の前日は原則として門限が22:45となり外泊も可
- 寮生活は当直学生が主体となり、学生の自治により運営される

も意識した俯瞰が大切だという。「初級幹部職員を育てる意味では、本科生や研修生といった区別は一切ありません。常に目の前の海とそこに居る地域の人々、そして他の機関と連携したネットワークの中で行政課題に主体的に取り組み大切さを伝えていきたい。海保を取り巻く状況は日々想像を超えるスピードで変化していきますが、その中で組織を運営するにはいろいろな価値観、あるいは能力を持つ人

が多方面から集まって海上保安庁をリードしていく必要がある、そういう意味でも、初任科への期待は大きい」

多様性という秘めた力を持って、初任科一期生は来春、現場へと巣立っていく。二期生、三期生もそれに続く。日本の、そして世界の海を取り巻く状況が刻々と変化する中で、若い世代のフレッシュな力が、きっと新しい風を巻き起こしてくれることだろう。



海事工学講座准教授

重松 吾郎

「私の学生時代、教官の教授はしゃべること以外専ら黒板への板書でした。今の初任科教官は、黒板に代えてパソコンでのプレゼンテーションソフトとホワイトボードを併用することが多いです。パソコンを使うと動画を入れたり、アニメーションをつくってモノの動きを見せることができ、教科書とホワイトボードでは再現しにくいビジュアルな説明が可能です。」



最後までやり切れる 海上保安官を目指す

一期生 ■ 機関科

中原 行啓 (26歳)

理工学部物理学科卒

中学生の時から教員を目指していましたが、アルバイトで塾講師をして人に教えるということを体験する中で、人間の深みという面も必要だと感じていました。ずっと教員という目標だけを見てきましたが、視野を広く持つことも自分には必要だったかもしれないという思いです。子供の頃には警察官や海上保安官に憧れていたこともあり、何か新たに挑戦できるものはないかと視野を広げた時に、新設の初任科で卒を募集していることを知り受験しました。

勉強も生活も、これまで自分が全く接することのなかった新たな環境ですし新鮮な気持ちでしたが、なかなか慣れない部分もあります。特に寮生活では常に人と一緒にいる環境で、確かにストレスもあります。ただ、船内生活を模して訓練しているという理由があることなので、それも仕事だし慣れなければいけません。何より、日本中から色々な知識、色々な分野の人間が集まっているのは刺激的であり魅力的です。しかも、同じ目的に向かってお互いに切磋琢磨できる環境は、本当に恵まれていると思います。

ここに来るまでは、「人を助ける」という海上保安官像に理想を描いていました。それは当然のことですが、今は自分の職責を果たし、「これでいいや」とどこかで諦めることなく最後までやりきれぬ海上保安官に、まずはなりたいと思っています。



最初は戸惑うことも 成長力で勝負したい

一期生 ■ 航海科

荒井 利一 (25歳)

理工学部機械工学科卒
(航空操縦学専修)

飛行機系の操縦に憧れて大学を選びましたが、新聞で初任科一期生の募集を見てこちらに進みました。色々な物を操縦したいという思いは船も変わりませんし、一期生ということに惹かれた面もあります。

乗船実習までの半年は文字通り叩き込まれる感じでしたし、加えて訓練科目もありますから、頭も身体も覚えることがたくさんあり大変だったのは事実です。

今年の特修科に進み、現場経験を積んできた一般研修生と席を並べていますが、我々一期生にとっては座学で聞いたことがある程度の話でも、一般研修生の方々はずぐにピンと来て理解することも多い。そのギャップを埋めていくには自身で努力していくしかありません。一方で初任科には多方面の知識に優れた人間が集まっているので、集まれば誰かしらが何かに詳しいというアドバンテージもあります。

初任科には一般大学卒の、言わばズブの素人が集まり、そこから2年という短い期間で現場に出ていきます。現場で戸惑うこともあるとは思いますが、そこは大目に見てもらい、そこからの伸び代、成長力で勝負したいと思っています。



初任科での1年を終え特修科に進んだ一期生と、今まさに初任科研修に



海上保安庁の 新しい役割を担う 存在になりたい

二期生 ■機関科

角田 葵 (24歳)

環境情報学部卒

大学のサークルでセーリングをやっていたのですが、マリナーに貼ってあったポスターを見て初任科のことを知りました。他の民間企業にも就職活動していましたし、「大卒の枠があるなら受けてみようかな」ぐらいの軽い気持ちです。好きな海に関わる仕事で、社会貢献性も高く、組織として、これからさらに大きく成長する点に魅力を感じています。

ここでの生活は社会からかけ離れていて、情報も遮断とまでは言いませんが限られています。外との交流が極端に少なくなり、普通の大学を出ている身としては閉鎖的に感じます。寮生活では高い志を持つ特修科や語学研修生の方と共に生活することができ、楽しいのはもちろんですが、日々勉強させていただいています。仕事のつながりとは関係なく、ひとりの女性としても尊敬できる方が多くいらっしゃるの、良い刺激を受けています。

まだ入校して4ヶ月ですし、将来自分がどんな海上保安官になるべきかなど、何もイメージはありません。ただ、今後海上保安庁が担う仕事はどんどん増えていくと思いますが、私たち初任科の人間は、その増えていく分を担っていくのだというイメージがあります。自分の道は自分たちで築いていくという意識で、時代に即して現れるニーズに対して、新しく入ってきた私たちがそれを担っていければと思います。



後輩たちと共に 初任科の歴史を作る

二期生 ■航海科

有働 瀬南 (22歳)

体育学部卒

中学生の時から海上保安官を目指していたので、大学も公務員への就職実績で選びました。元々は海上保安学校に行こうと思っていましたが、高校まで続けていたバスケットボールをさらに高いレベルで続けたいと思って大学に進み、念願の全国大会にも出場しました。

初任科については事前情報がほとんどなくて未知の領域でしたが、色々な専門知識を持った人たちと交流し、生活し、学ぶことができる環境です。これまでスポーツ一筋でしたので座学では苦勞していますが、一方、訓練では持ち前の体力と元気で同期を引っ張れるよう頑張っています。

特修科に上がったら、ぜひ現場経験のある一般研修生と積極的に交流し、多くのことを吸収していきたいです。私は特殊救難隊を目指しているので、日々の体力錬成を怠ることなく、そして勉強も手を抜くことなく文武両道で頑張ります。まだ二期生ですが、これから入ってくる三期生、四期生といった後輩たちと共に、初任科の歴史を作っていきます。



初任科概要



カリキュラム

1年目 (初任科)

2年目 (特修科に編入)

共通科目	複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要な専門知識を身につける	
法学概論 海上保安業務概論 など	憲法、行政法、国際法、刑法、刑事訴訟法 海上交通法規、海上取締法規、海上警備論 海洋環境法、海上犯罪捜査論、救難防災論 政策分析演習、初級監督者論 など	
専攻別科目	航海または機関の専攻に分かれ、それぞれの専門知識・技能を身につける	
航海	航海学基礎、航海計器学基礎、海洋気象学基礎 応用学基礎、海事法基礎 電子海図情報表示装置実習 など	航海学、航海計器学、海洋学、気象学、運用学 海事法、航海力学、船舶工学、海難救助論 など
機関	機関構造学基礎、内燃機関学基礎、蒸気機関学基礎 補助機関学基礎、電気工学基礎、電気機器学基礎 機械工学基礎、材料工学基礎、工業化学基礎 機関実務基礎、機関法規基礎 など	機械工学、内燃機関学、蒸気機関学 機関学実験、補助機関学、電気工学、船用工業化学 船用電気機械、機関要務 など
訓練科目	逮捕術から救急安全法まで特殊技能を身につける 逮捕術、けん銃、武器、端艇・信号、水泳、基本動作、救急安全法 など	
実習科目	小型船舶の操船技術や通信技術を学ぶ 小型船舶、通信実技、国際通信実習、マリンレジャー実習 など	
乗船実習	習得した船舶運航の知識、技能を実際の船上で実践し、業務遂行能力を身につける	
国内航海実習		

取得できる資格

	航海	機関
取得できる資格 (履修により取得)	四級海技士(航海)の筆記試験免除	四級海技士(機関)の筆記試験免除
	一級海上特殊無線技士／二級海上特殊無線技士	
取得を目指す資格 (受験により取得)	一・二・三級海技士(航海)の筆記試験	一・二・三級海技士(機関)の筆記試験
	一級小型船舶操縦士	

採用試験日程[※]



試験種目[※]

- 第1次試験 基礎能力試験(多肢選択式)、課題論文試験
- 第2次試験 人物試験、身体検査、身体測定、体力検査

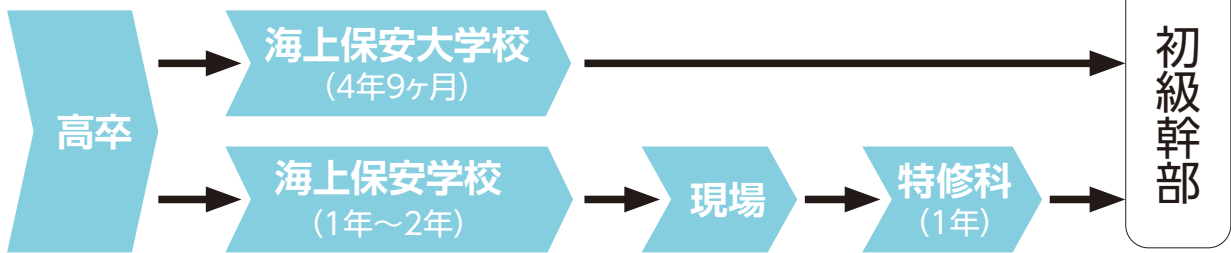
※試験の詳細は人事院ホームページ
「国家公務員試験採用情報NAVI」
で確認ください。



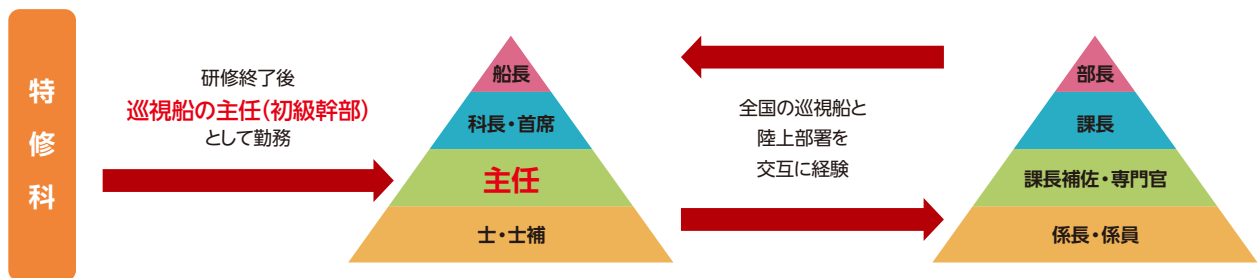
★新設の初級幹部コース (大卒程度)



★現状の初級幹部コース (高卒程度)



研修終了後のキャリアパス



20歳代	30歳代~40歳代			50歳代	
三等海上保安正	二等海上保安正	一等海上保安正	三等海上保安監	二等海上保安監	一等海上保安監
巡視船主任	本庁係員	船長・機関長 大型巡視艇	保安部課長 管区本部課長 本庁課長補佐	科長 大型巡視船	保安部長等 管区本部各部部长 管区本部長 本庁課長

海上保安庁 幹部への道

巡視船の主任職員として配属された後、能力や適性にに応じて、本庁・管区本部や航空基地での課長職、巡視船の船長など、海上勤務と陸上勤務を交互に繰り返しながら、さまざまなキャリアを積み幹部職員となります。



NEWS



FLASH



6月23日

一管区

室蘭保安部
海洋環境パネル展示

展示状況（本館1階）



6月24日

学校

門司分校
第86期生
修了式を実施！



6月30日

七管区

本部
巡視船あさなぎ
進水の儀

唐津くんち
曳山バージョン



©JCGF



浜田海上保安部アンバサダー 認定式

6月8日

八管区

浜田保安部
アンバサダー
認定式



6月13日

二管区

本部・八戸・仙台基地
巡視船しもきた・
機動救難士合同訓練



「奈良県と第五管区海上保安本部との
包括連携に関する協定」
締結式

6月20日

五管区

本部
奈良県と
包括連携協定を締結

奄美大島バージョン



©JCGF



7月3日

三管区

下田保安部
伊豆山港行方不明者潜水捜索
～土石流災害から1年～



6月22日

九管区

能登保安署
園児に対する
海洋環境教室



7月21・22日

学校

保安学校
遠泳訓練を実施!
5.5キロメートルを完泳!



7月8日

二管区

宮城保安部
洋上救急慣熟訓練
「洋上救急制度」創設40周年



©ALBIREX NIIGATA



7月23日

本部

九管区職員集合!!
Jリーグ「アルビレックス新潟」
ホームゲームにお邪魔しました!!

九管区

7月23日

本部

那覇空港で警察と合同で
マリナーズ事故防止
啓発活動!

十一管区



7月8日

六管区

松山保安部
小学校への安全教室



7月13日

一管区

小樽保安部
官民連携救助訓練



8月2日

北九州基地

有明佐賀航空少年団の
航空基地見学会

七管区



青森ねぶた祭りバージョン

©JCGF



8月7日

横浜保安部

横浜海上防災基地
一般公開

三管区



8月7日

四日市保安部

四日市港まつり
巡視艇あおたき一般公開

四管区



7月14日

四管区

尾鷲保安部
テレビタレント池山響氏の
一日海上保安部長



7月18日

十管区

八代保安署
八代港
クリーン作戦



8月8日

宮津保安署

一日海上保安官

八管区



8月15日

本部

沖縄県知事から第十一
管区設立50周年に伴う
感謝状拝受

十一管区



海の事件事故は
118番



7月14日

堺保安署

堺ブレイザーズと
コラボ

五管区

海の「事件事故」は118番へ!

 118番通報とは

海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年から導入された緊急通報用電話番号です。



通報のポイント

「いつ」「どこで」「なにがあったか」などを簡潔に落ち着いて通報してください。



海難、人身事故に遭遇した、または目撃したとき



密漁・密輸・密航事犯等の情報を得たとき



油の排出等を発見したとき



不審船、漂流・漂着木造船を発見したとき

聴覚や発話に障がいがある方へ NET118



聴覚に障がいを持つ方

ご利用できる方



発話に障がいを持つ方



事前登録制
無料

右のコードを読み取る→
またはentry@net118.jpに
空メールを送信し、返信されたメールの
案内手順に従い事前登録をお願いします。

Conductor

海上保安庁音楽隊技術顧問

荒井 弘太

Program

行進曲「秋空に」

DCUメインテーマ

素晴らしき3つの冒険

ほか



海上保安庁音楽隊 第28回定期演奏会

2022年10月27日(木) 18:00 開場 / 19:00 開演

- 本演奏会はライブ配信も実施いたします。
- 劇場での観覧希望の方は、電子チケットサービス「teket(テケト)」よりお申し込み下さい。受付期限：令和4年10月7日(金)12:00〆切

公益財団法人 日本海事センター補助事業 / 後援：公益財団法人 海上保安協会
お問い合わせ先：海上保安庁政策評価広報室 03-3591-6361 (平日午前9時30分から午後6時まで)